

機関番号:30117

研究種目: 基盤研究C

研究期間: 2008~2010

課題番号:20530697

研究課題名(和文)「健康相談活動」の実践力育成教育モデル開発のための分析的研究

課題名(英文) An Analytical Study to Construct a Model of Yogo Teacher Training for
(to Improve) Practical Health Consultation Activities研究代表者 今野 洋子 (IMANO YOKO)
北翔大学・人間福祉学部・教授

研究者番号:60310108

研究成果の概要(和文):

本研究では、養護教諭の行う「健康相談活動」に着目し、実践力育成教育モデルの開発を目指し、各種研究を行った。(1) 養護教諭養成校対象の調査から、養成の実態と課題を明らかにするとともに、(2) モデルシラバス実践校対象の調査から、具体的な授業内容と課題を把握し、(3) 現職養護教諭対象の調査から、養護実践における課題を捉えた。これらの調査研究で得られたことを検討し、実践力育成教育モデルを提示し、(4) 教育モデルの模擬授業実施や聴き取り調査から、実践力育成教育モデルを提示した。

研究成果の概要(英文):

In this research project construction of a model to develop "Health Consultation Activities" of Yogo teachers was aimed focusing their practical abilities, and the studies below were conducted.

- 1) Questionnaires were sent to 98 Yogo teacher schools to elucidate the practices conducted and problems to be solved concerning "Health Consultation Activities" education in their schools.
- 2) Specific classes in schools being selected because of practicing the model syllabus precisely investigated by interviews of teaching staff, analyzing the class by video-recording and the reports of the students.
- 3) Questionnaire survey was conducted to incumbent Yogo teachers to elucidate the state and difficulties in their schools.
- 4) Trial classes based on a constructed model of "Practical Health Consultation Activities" were given to the students and incumbent Yogo teachers and evaluated.

交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野: 社会科学

科研費の分科・細目: 教育学

キーワード: 教育方法、養護教諭養成教育

1. 研究開始当初の背景

近年、学校における教育課題は複雑化・多様化しており、教育の担い手である教員に対し優れた指導力と高い専門性とを抱合する実践力が強く要請されている⁽¹⁾。子どもの健康課題も複雑化・多様化しており、教育職員であり、心とからだの専門家である養護教諭に対する期待は特に大きく、実践力についても言及されている⁽²⁾⁽³⁾。そこで、本研究では、「健康相談活動」における実践力に着目し、実践力育成教育モデルの開発を目指した。

「健康相談活動」とは、1997年保健体育審議会答申（以下、「保体審答申」と表記）において、養護教諭の新たな役割として特化されたものであり、「養護教諭の職務の特質や保健室の機能を十分に生かし、児童・生徒の様々な支援、関係者との連携等、心とからだの両面への対応を行う養護教諭の活動」と定義づけられている⁽⁴⁾。

保体審答申を受け、1998年に教育職員免許法（以下、「教免法」と表記）が改正され、「健康相談活動」の資質能力を担保するため、科目「健康相談活動の理論及び方法」が新設され、養護教諭養成カリキュラムの中に位置付けられた。つまり、養護教諭の健康相談活動に関する実践力育成のための教育の中核は、この新設科目にある。

これまでの養護教諭養成カリキュラム研究についてみると、日本学校保健学会「養護教諭の養成教育のあり方」共同研究班による「これからの養護教諭の教育」⁽⁵⁾、日本教育大学協会全国養護部門研究委員会による養成カリキュラムの検討⁽⁶⁾をはじめとしたカリキュラム研究があるが、養護教諭の実践力を育成するという観点での検討は、ほとんど行われてこなかった。

一方、1998年の教免法改正による新設科目「健康相談活動の理論及び方法」について、「健康相談活動カリキュラム開発研究会」が組織され、2003年にはモデルシラバス等を示した報告書⁽⁷⁾が出された。しかし、これがどう活用されているかの報告はこれまで行われてこなかった。なお、後藤ら（2006）は、養成大学対象の調査から、科目新設当時の状況について、科目名称の多様さや科目内容に科目設定の趣旨が徹底されていないこと、教育内容の検討も不十分であることを指摘⁽⁸⁾していた。

2. 研究の目的

養護教諭は、専門職として、子どもの心身の健康問題をいち早く発見し、解決のための推進役を担う立場にあり、「健康相談活動」はそのための大切な役割である。

前項に示した状況を踏まえ、本研究においては、養護教諭の新たな役割として特化され

た「健康相談活動」に着目し、その役割を担うための養護教諭の実践力育成教育モデルの開発を目指した。

3. 研究の方法

量的研究方法と実的研究法とを組み合わせたマルチメソッド・アプローチを用いて分析した。

(1) 養護教諭養成校対象の質問紙調査

2008年4月1日現在で養護教諭一種免許状課程認定を受けている98大学を対象として、「健康相談活動の理論および方法」に相当するすべての授業科目名称・開講学年・開講時期・科目担当者等についての質問紙調査を実施するとともに、シラバス等の送付を依頼し、得られた資料をもとに実態を整理し課題について分析した。

(2) モデルシラバス実践校対象の調査

モデルシラバス実践校の科目担当者を対象に聞き取り調査を実施するとともに、授業参観を実施した。授業を録画してのプロトコル分析や逐語録の内容分析を行い、授業の効果について分析した。また、受講学生のレポートを収集し、授業の構成や教授方法について分析した。

なお、モデルシラバス実践校とは、2003年の「健康相談活動カリキュラム開発研究会」報告書⁽⁷⁾に示されたモデルシラバスに基づく教育を取り入れている養成校とした。

(3) 現職養護教諭対象の調査

現職養護教諭に「健康相談活動」に関する質問紙調査を実施し、養護教諭の「健康相談活動」の現状や困難点について分析した。また、新任養護教諭には養成教育における健康相談活動についてのレポートを依頼し、養成教育と養護実践の関わりについて、グラウンデッド・セオリー・アプローチによる分析を試みた。

(4) 開発した教育内容の試行についての聞き取り調査

開発した実践力育成教育モデルについて、現職養護教諭と学生等を対象に、模擬授業を実施した。授業後のグループディスカッションおよびレポートの内容分析を行い、開発した教育モデルの有効性と課題を検討した。

4. 研究成果

本研究によって、明らかにされたことは以下の通りである。

(1) 養護教諭養成教育における課題

養成大学対象の調査から、1998年の教育職員免許法改後10年以上経過した現在においても、「健康相談活動」の意義や科目設置の趣旨がいまだに徹底されていないことが把握できた。教免法に示された「健康相談活動の理論及び方法」という科目名称を用いている大学は少なく、「健康相談活動」という用

語を科目名に冠し、モデルシラバスに準拠した展開をしている養成機関（＜科目名称・内容一致型＞と表記）は44.2%と半数弱にとどまった。しかし、＜科目名称・内容一致型＞の養成機関においては、教職科目や専門科目、あるいは養護実習を学んだあとの時期に位置付けられており、専門職である養護教諭になるための応用科目としてとらえられていることが明らかとなった。

また、シラバス類型によって使用される教科書が異なっており、教科書の選定や教材に関する具体的な工夫の必要性が示された。

なお、科目担当者の「養護教諭経験の有無」によって、授業内容や展開等に異なる特徴がみられ、科目担当者の能力について一考を要すべきことが示された。つまり、養護教諭の健康相談活動について学ぶ「健康相談活動の理論及び方法」は理論だけでなく、養護教諭としての実践方法や具体的な支援方法をも学ぶ科目であることから、養護教諭経験を持つ者が科目担当の必須要件となることが考えられた。

(2) 「健康相談活動」実践力育成のための授業展開・内容と課題

科目「健康相談活動の理論および方法」の授業分析や受講学生のレポート分析から、モデルシラバスに準拠して学ぶことによって、健康相談活動に関する学生の学びが深化し、養護教諭になりたいという意欲も深まることがとらえられた。モデルシラバス実践校では、15回の学習の内、2回、ロールプレイングを実施しており、このロールプレイング体験により、それまでの理論的学習を省察しながら学ぶことを把握できた。しかし、やり方や扱う内容は学校によって異なっていた。

また、モデルシラバス実践校では、1回90分の授業の導入に簡単なエクササイズを入れており、科目担当者・受講学生ともに親和的な雰囲気の中、授業に臨むことが明らかにされ、「健康相談活動」を実践する養護教諭の資質の獲得につながるということがわかった。しかし、学習内容によっては時間の確保のため、エクササイズを省略する場合もあるということから、エクササイズの内容の吟味が必要と考えられた。

さらに、90分の中でグループワークやディスカッションなどの演習的な場面を多く取り入れ、学生が主体的に参加し、よく考えることができるような工夫がされていた。

しかし、事例検討や事例研究について学ぶ時間が少なく、概要しか扱われていなかったため、事例検討および事例研究に対する受講学生の理解は十分とはいえなかった。一人ひとりの子どもに向き合い実践を重ねるべき養護教諭にとって事例に学ぶことは欠かせないことから、事例検討や事例研究を体験的に学ぶ必要性が指摘された。

また、養護教諭独自のカウンセリングの技法やタッチングなどの技術については十分に学習する機会が少なく、現行の教免法に示されている2単位では不十分であることが示された。

(3) 現職養護教諭にみる養成教育の課題

新任養護教諭に焦点をあてて見た結果、養成機関での教育が養護実践の基盤として大きな影響を持つことが明らかとなった。モデルシラバス実践校において「健康相談活動」について学んだ養護教諭は、大学で学んだことを応用・発展させながら養護実践に結びつけていることが捉えられた。一方、モデルシラバス実践校以外の養成大学の場合、新任研修や現職研修が大きな意味を持つことが明らかにされた。

現職養護教諭対象の質問紙調査から、健康相談活動を、養護教諭の専門性を生かした役割であるにとらえていることがわかった。しかし、学校保健安全法に示された「健康相談」との混乱や不安がみられ、養護教諭の実践にかかわる用語の整理や定義の見直しが必要であると考えられた。養護教諭は子ども一人ひとりの対応を大切にしており、タッチングやバイタルサインをみながらの対応など、養護教諭にしかできない関わり方を意識して行っていることがわかった。

健康相談活動を行う上での困難点と研修について関連がみられ、「相談時間の不足」等を困難点としてあげる養護教諭は「体験的な研修」「演習形式の研修」を望み、「自分自身の力量不足」をあげた養護教諭では「カウンセリングの基礎知識」等基本的なことがらに関する研修を望んでいた。また、健康相談活動の研修に関しては事例に学ぶことが大きいことが示された。

なお、健康相談活動の実践では「フォローアップ」「関係機関との連携」等、地域によって差がみられた項目があった。日本健康相談活動学会によるサマーセミナーの開催地では、実施率が高かったことから、養成機関の卒後研修を含めた現職研修の検討が必要であることが考えられた。

中央教育審議会答申（2008）で「養護教諭の行う健康相談活動がますます重要⁽⁹⁾」と提言された一方で、2009年より施行された学校保健安全法で「健康相談活動」という語句は用いられず、「健康相談」の中に含めて扱われるようになったことで、「健康相談活動」の表記について、混乱している状況が把握でき、実践の根拠となる用語の整理および定義の見直しが必要であることが示唆された。

(4) 実践力育成教育モデルの開発

これまでに述べた課題から、教育モデルを策定し、それに沿って、現職養護教諭および協力学生との模擬授業、高校生対象の授業体験等を試行した。さらに、聞き取り調査を重

ねて、実践力育成のための教育モデルを作成した。作成した教育モデルの最も大きな特徴は、現行の教免法に定められた「健康相談活動の理論および方法」(2単位)に「健康相談活動演習」(2単位)を加えたカリキュラム案での教育モデルを作成したことにある。

なお、科目担当者については、養護教諭経験者であり、健康相談活動に関して研究的視点から実践に取り組む者と考えた。

「健康相談活動の理論および方法」(2単位)に関しては、現在のモデルシラバスの優れた内容を生かしつつ、以下のような点を加えて修正した。

①従来は理論のみであった事例検討については、短時間で行われるインシデント・プロセスの体験を取り入れることとした。

②2回のロールプレイング体験について、1回目と2回目で扱う題材・到達度等を示した。併せて用いるべき養護教諭独自の技法についても示した。

③導入部分で、毎回必ず、定義の確認を行い、続けて簡単なエクササイズを行うこととし、エクササイズの内容は「好きな色」「好きなことば」を発表する等、互いを知り合うことに重点を置くこととした。

④授業に応じたワークシートを作成し、自分の考えを整理し、十分予習してから授業に臨むことができるようにした。また、インシデントプロセスも授業時間内に学ぶことができるよう課題把握シートを作成した。

「健康相談活動演習」(2単位)については、養護教諭役および子ども役となるロールプレイングでの学習を主なものとした。

しかし、学校の状況の理解や子どもの生活の理解が欠かせないことから、授業の導入部分でロールプレイング場面の背景となる時期や状況に合わせた保健指導を行なわせることとした。また、指導のためのほけんだよりを用意し、配布させることとした。

ロールプレイングは、前以て課題を渡し、授業の中でロールプレイングをさせ、養護教諭がなぜそこに立ち、そのような声かけをするのか、なぜ子どもに触れたのか、それが最善の方法なのか等、確認していくこととした。さらに、一連のロールプレイングを終えた後、もう一度同じ状況場面でのロールプレイングをさせることとした。

「健康相談活動演習」のシラバス、および課題となる子どもの状況について、教材を作成した。

開発した教育モデルに関しては、現在、本学のカリキュラムや授業に反映させており、他大学でもワークシートや教材等が活用されている。

【文献】

- (1)戸渡速志：今後の教員養成・免許制度の在り方について、日本養護教諭教育学会誌、9(1)、2-5、2006
- (2)後藤ひとみ：養護教諭教育の考え方と養護教諭教育プログラムの進め方、日本養護教諭教育学会誌、9(1)、7-9、2006
- (3)大谷尚子：専門職業人養成におけるコア・カリキュラム—日本教育大学協会全国養護部門の研究成果と今後の展望—、日本養護教諭教育学会誌、9(1)、16、2006
- (4)保健体育審議会：「生涯にわたる心身の健康の保持増進のための今後の健康に関する教育及びスポーツ振興のあり方について（保健体育審議会答申）、1997、28-29
- (5)日本学校保健学会「養護教諭の養成教育のあり方」共同研究班：これからの養護教諭の教育、東山書房、1994
- (6)日本教育大学協会全国養護部門研究委員会：21世紀における養護教諭教育のあり方に関する報告書、1997
- (7)健康相談活動カリキュラム開発研究会：報告書 健康相談活動の理論及び方法—カリキュラム及び指導方法の開発—、2003
- (8)後藤ひとみ他：健康相談活動の理論及び方法の開講に関する現状と課題、日本健康相談活動学会誌、Vol11、No.1、2006、33-45
- (9)中央教育審議会：子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について（中央教育審議会答申）、文部科学省、2008

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

- ①今野洋子：養護教諭の実践力育成を目指した「健康相談活動演習」の展開、北翔大学「人間福祉研究」、第12号、61-73、2009
査読無。
- ②今野洋子・高橋英実・寺崎由貴・照井沙彩：養護教諭養成教育における「健康相談活動の理論及び方法」開校の実態と課題—シラバス内容の類型化による分析—、日本養護教諭教育学会誌、vol13、137-149、2010、査読有
- ③今野洋子：科目担当者の経験に着目した「健康相談活動の理論及び方法」開講状況の分析、北翔大学「人間福祉研究」、第13号、13-28、2010
査読無。
- ④今野洋子：「健康相談活動演習」における学習の成果および課題の分析、北翔大学「人間福祉研究」、第14号、43-53、2011、
査読無。

〔学会発表〕(計 19 件)

- ①今野洋子：養護教諭養成教育における「健康相談活動の展開－養護教諭の実践力育成を目指して－」第 43 回北海道学校保健学会 (2008 年 10 月 4 日 北海道しんきんけんぽ)
- ②今野洋子：「健康相談活動演習」の展開－養護教諭の実践力育成を目指した教育方法－第 55 回日本学校保健学会 (2008 年 11 月 16 日 愛知学院大学)
- ③今野洋子：養護教諭養成教育における「健康相談活動」の実践力育成を目指した教育方法の検討－ワークシート活用による授業づくりの提案－日本健康相談活動学会第 5 回学術集会 (2009 年 3 月 1 日 千葉大学)
- ④阿部里穂・今野洋子・他：学校における健康相談活動の実際 (1)－北海道の養護教諭を対象とした調査から－日本健康相談活動学会第 5 回学術集会 (2009 年 3 月 1 日 千葉大学)
- ⑤照井沙彩・今野洋子・他：学校における健康相談活動の実際 (2)－三府県の養護教諭を対象とした調査から－日本健康相談活動学会第 5 回学術集会 (2009 年 3 月 1 日 千葉大学)
- ⑥高橋英実・今野洋子・寺崎由貴・照井沙彩：養護教諭養成教育における「健康相談活動の理論及び方法」(第 1 報)－科目新設 10 年を経た開講の実態－日本養護教諭教育学会第 17 回学術集会 (2009 年 10 月 11 日 弘前大学)
- ⑦寺崎由貴・今野洋子・高橋英実・照井沙彩：養護教諭養成教育における「健康相談活動の理論及び方法」(第 2 報)－科目担当者の特性からみた開講状況－日本養護教諭教育学会第 17 回学術集会 (2009 年 10 月 11 日 弘前大学)
- ⑧今野洋子・高橋英実・寺崎由貴・照井沙彩：養護教諭養成教育における「健康相談活動の理論及び方法」(第 1 報)－開講状況からみた養成教育の課題－日本養護教諭教育学会第 17 回学術集会 (2009 年 10 月 11 日 弘前大学)
- ⑨今野洋子・高橋英実・寺崎由貴：科目「健康相談活動の理論及び方法」の開講状況に関する報告－第 1 報－第 44 回北海道学校保健学会 (2009 年 10 月 24 日 道特会館)
- ⑩今野洋子：科目「健康相談活動の理論及び方法」の開講状況にみる養護教諭養成教育の課題 (2009 年 10 月 24 日 沖縄県立看護大学)
- ⑪今野洋子：健康相談活動の原点を改めて探る－養護教諭が行う健康相談活動と健康相談－養護教諭養成の立場から、日本健康相談活動学会第 6 回学術集会 (2010 年 2 月 20 日 大宮ソニックシティ)
- ⑫高橋英実・今野洋子・寺崎由貴：養成教育におけるインシデント・プロセスの活用、日本健康相談活動学会第 6 回学術集会 (2010 年 2 月 20 日 大宮ソニックシティ) 招待講演
- ⑬寺崎由貴・今野洋子・高橋英実：新任養護教諭の健康相談活動に関する学び－修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて－日本健康相談活動学会第 6 回学術集会 (2010 年 2 月 20 日 大宮ソニックシティ)
- ⑭今野洋子：「健康相談活動演習」における学習の成果と課題、日本養護教諭教育学会第 18 回学術集会 (2010 年 10 月 10 日 大阪府教育会館たかつガーデン)
- ⑮今野洋子：インシデント・プロセスの導入からとらえた科目「健康相談活動の理論及び方法」の構造について、第 45 回北海道学校保健学会 (2010 年 10 月 23 日 道特会館)
- ⑯今野洋子：自分磨きを続けて－養護教諭養成教育の課題と展望、網走館内養護教員研究大会 (招待講演) (2010 年 10 月 27 日 清里町)
- ⑰今野洋子：演習を通して学ぶ「健康相談活動」の資質能力、第 57 回日本学校保健学会 (2010 年 11 月 27 日 女子栄養大学)
- ⑱今野洋子：心とからだの両面を支える健康相談活動・健康相談－中央教育審議会答申・学校保健安全法を受けて－(養成の立場から)、日本健康相談活動学会第 7 回学術集会 (2011 年 2 月 20 日 金沢大学)
- ⑲今野洋子：中学生・高校生の「養護教諭の健康相談活動」体験プログラムに関する分析－学術振興会事業「ひらめき☆ときめきサイエンスにおける実践－、日本健康相談活動学会第 7 回学術集会 (2011 年 2 月 20 日 金沢大学)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

今野 洋子 (IMANO YOKO)

研究者番号：60310108

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし